



一人ひとり目標を持って日々の練習に励む陸上部

特集 次の時代を担う若者が地域を元気に!

～地域と大学・高専が創る活力ある津山～

各地域や地方が、それぞれの特長を生かした魅力あるまちづくりに取り組む中で、多様な技術や知識を持つ大学などとの関わりを強めていくことが必要とされています。

市は、学校法人美作学園 美作大学・美作大学短期大学部（以下、美作大学）と独立行政法人 国立高等専門学校機構 津山工業高等専門学校（以下、津山高専）と包括連携協定を締結して今年で7年目を迎え、さらなる「地域力・市民力の向上」や「産業の振興と雇用の拡大」を目指しています。

連携する各校の取り組みを紹介します。

圖秘書広報室 ☎32-2029



全国高等専門学校ロボットコンテスト中国大会（10月11日開催）に出場するメンバー

早期一貫で技術者の育成を行う 津山高専

昭和38年に創設以来、確かな基礎学力、豊かな心、健やかな体を三位一体とする5年間の一貫した教育を行い、実践的で創造的な技術者を育成しています。

産学官連携による開発支援

金属のあらゆる加工法に対応できる実習工場や材料の分析ができる電子顕微鏡、3次元スキャナー、3次元プリンターなどを所有する津山高専は、新商品の開発や新技術の導入などによる製品・サービスなどの高付加価値化を図る企業からの分析や強度実験など多くの依頼に対応し、市の支援策なども活用して、産学官共同で研究や開発を行っています。

今年度から市が推進する津山ステンス・メタルクラスター（企業連携）にも参加し、津山高専の技術力を発揮して、津山が金属産業の集積地域へ成長するため貢献していきます。



また、津山地域の産業の振興と津山高専の教育や研究の推進を目指して発足した異業種交流グループ「津山高専技術交流プラザ」は、今年で20周年を迎えます。現在76企

学生の声



電気電子工学科4年 大塚友美子さん

高専は就職率が高く、海外研修もあって、高度な技術を習得したいのが魅力ですね

業が参加し、産学交流会や高専公開（出前）講座など、実践的な知識を養う機会として成果を得ています。

今後、能力が高い技術者を輩出し、地域の産業を盛り上げていきます。

ロボット技術者の養成

「知の拠点」「雇用の創出」をキーワードに、ロボットの研究開発と技術者の養成に取り組んでいます。また、教育研究の一環として全国高等専門学校ロボットコンテストへ出場し、そこで得た知識や経験、ものづくりの素晴らしさを次の時代を担う子どもたちへ伝えるための高専ロボコン体験会の開催などを行っています。

ロボット技術を活用して、福祉介護用ロボットや中山間地域で活躍できる農業用ロボットなど、新しいタイプのロボットを企業と共同開発して、津山地域の産業の活性化を目指していきます。

食と子どもと福祉の専門家を育てる 美作大学

生活を支える人材を養成するため、現場での体験学習が重要であると考え、地域を学びの場とした教育に力を入れています。

食育弁当の共同開発

食育事業の一環として、栄養バランスを考えた「食育弁当」を地元食品業者と共同開発しています。管理栄養士を目指す学生が、季節や行事に合わせて地元産の米や食材にこだわったメニューを考え、「全国お弁当・お惣菜大賞」で、昨年から2年連続して最優秀賞などを受賞しました。

福祉のまちづくり実践 三世代交流

少子高齢化が進む中、高齢者（じいちゃん・ばあちゃん）と子どもたちが交流を図る機会が少ないなどの課題を抱える城東地区で、地域の人々と学生が一緒に空き家を改装し、さまざまな世代の人たちが地域でふれあえる場を作りました。そこで、こま回しや竹馬などの昔遊びや自分たちが住んでいる地域の



抱える城東地区で、地域の人々と学生が一緒に空き家を改装し、さまざまな世代の人たちが地域でふれあえる場を作りました。そこで、こま回しや竹馬などの昔遊びや自分たちが住んでいる地域の

歴史を学ぶことで世代交流を深め、地域の活力を高めています。学生が地域に出て課題に関わり、解決に向けて一緒に取り組むことで、実践的な知識と経験を得る場になっています。

小学校教育支援活動

市の放課後学習支援と連携し、市内の小学校で学生が先生となり算数教室を行っています。



教員を目指す学生たちの実践力を養う場になると同時に、小学校と大学が協働で児童の学力の向上を図る場にもなっています。

学生の声



児童学科4年 貞廣加奈子さん

児童一人ひとりの気持ちに寄り添うことの大切さを学びました

社会の要請・期待に対する戦略

産業構造の変化やグローバル化により科学技術の領域が複雑・多様化する中、これまでの機械工学や電子工学などの個別の専門分野だけでなく、複数の専門分野が融合した新たな分野に対応できる人材の養成が求められています。

このような社会の要請や期待に対応されるよう、平成28年度から、既存の専門分野である機械工学・電気電子工学・情報工学に基礎科学分野（先進科学系）を追加し、総合理工学部の1学科に統合します。これにより基礎科学としての理学と実践のための工学の総合教育を進めていきます。

新たな学科編成で、入学者が学びたいことなど、幅広い要望に応え、地域から世界まで、卒業生の活躍の場を大きく広げることが可能になります。同時に、産学官連携や国際交流を推進することで、地域の産業振興や雇用創出にも貢献していきます。

津山高専は、地域とともに持続的に発展する教育研究機関を目指します。



津山工業高等専門学校 校長 則次俊郎さん

「地域をキャンパス」とした教育で 地域の専門職を育成

食・子ども・福祉の分野だけでなく陸上部やサッカー部、ソフトボール部などクラブ活動にも力を注ぎ、文武両道で教育に取り組んでいます。

また、大学での授業だけでなく、積極的に地域に出て、さまざまな活動に参加することを推奨しています。その中で学生は、現場の課題を肌で感じ、それを解決したいという気持ちが芽生えてきます。そして、高い意識を持って授業に臨み、課題を解決する方法を学習して地域の人々に貢献できる人材へと成長していきます。

このように現場での体験学習を経験し、それを学習に生かすという循環が美作大学の教育の特徴であり、管理栄養士や社会福祉士の国家試験における高い合格率や小学校教員採用試験などで多くの合格者を輩出することにつながっています。

「地域をキャンパス」をモットーに、今後も教育力の一層の向上に努めていきます。



美作大学 学長 船盛茂さん